

平成25年度老人保健健康増進等事業 事業概要

社会福祉法人仁至会 認知症介護研究・研修大府センター

事業名	事業実施目的・事業内容
<p>若年性認知症に対する効果的な支援に関する研究事業</p>	<p>全国で若年性認知症の支援を行っている機関や団体が年々増加しているが、どこにどのような支援機関やサービスがあるかについての一元的な把握は、まだ不十分であり、支援団体や機関どうしのつながりも希薄である。これらの機関や団体から、本人や家族だけでなく支援する立場における課題やニーズについて個別に収集し、解析する。ハンドブックを配布した機関で、若年性認知症の相談業務を行っている担当者等が、本人や家族からの相談に対応したり、支援をする際に、ハンドブックの内容に基づいてきめ細かく対応することが重要であるが、それを可能にするため、ハンドブックの内容をさらに詳細に解説した、担当職員向けのガイドブックの作成を目指す。作成されたガイドブックを活用して、若年性認知症の相談に対応する職員に対する研修を行うことが可能となる。また、昨年度、ハンドブックを配布した行政・医療機関等に対し、アンケート調査を行い、その効果を検証する。</p>
<p>施設における認知症高齢者のQOL向上のための多面的アプローチ・リハビリテーションに関する研究事業</p>	<p>平成24年度までに、認知症が進んでも、表情・視線・ジェスチャーなど非言語性のコミュニケーションシグナル認知機能は比較的保たれていること、また、これらを積極的に用いたりハビリにより、認知症高齢者のコミュニケーション能力が向上することを明らかにし、その結果を介護現場に積極的に取り入れるための手引きやDVDを作成してきた。これらは視覚情報を主な対象として行われてきたが、実際にコミュニケーションを取る際には、聴覚情報に含まれる非言語性の要素（話す時の感情、速度や声の大きさ、高さ、抑揚、リズムなどの「声の表情」）も重要な役割を果たしていると考えられる。そこで、今年度は、認知症高齢者の音声認知の特徴を検討し、どのような「話しかけ方」が意思疎通や信頼関係の構築に有用であるのかを明らかにすることを目指す。</p>